

予算額

16,538,260 円

## トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	7 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	1 団体	団体	6 団体	団体

トップアスリート総数	1 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	1 名	名	名	名

アシスタントコーチ総数	6 名
-------------	-----

指導種目	卓球
------	----

## ◆効果をもとめるための工夫や取組など

- ・ 種目の特性から、運営補助員を置いた。
- ・ トップアスリートと部活動等の指導者の連携を密にした。

## ◆成果と課題

## 〔成果〕

- ・ 参加者は、トップアスリートの技に触れ感動していた。
- ・ 中学校や高等学校では、生徒の技術向上心が高まり、部活動の活性化が図れた。
- ・ 総合型地域スポーツクラブでは、会員の活動への参加意欲が高くなり、参加者数が増加した。
- ・ 派遣先に総合型地域スポーツクラブの存在が認識された。

## 〔課題〕

- ・ 学校の部活動では、体育館の活動予定が1ヶ月ごとに決まるので、長期予定が立たない学校があり、臨機応変な対応ができるようにしておく必要がある。
- ・ 派遣先を精選して、計画的・継続的な指導ができるような工夫が必要である。
- ・ トップアスリート派遣のニーズは多いので、複数の種目で実施できるようにしたい。

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	中3対策プロジェクト				
	趣旨・目的	中学校3年で運動部活動に参加している生徒の多くが6月頃に大会を終了し、引退してしまい、翌年4月の高校入学までトレーニングをほとんどしないままとなってしまうことの課題が指摘されている。そこで、週1回程度の軽いトレーニングを継続できる場を地域スポーツクラブが提供する。				
	内容	サッカー、テニス、バスケットボール、卓球の4種目を予定した。				
	対象者	さいたま市浦和区内の中学3年生	参加人数/回	2~3名	実施回数	12回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラブニュースに事業の概要や実施状況等を掲載し、1300人の会員に情報提供。</li> <li>地域自治会との連携強化を図るために、自治会の会議で趣旨説明を行った。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学先が決まった子が参加したため、少数での指導ができた。</li> </ul>				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレーニングを継続的に行ったほうがよいとわかっているにもかかわらず、やはり受験が最優先となってしまう。</li> </ul>				

2	取組の名称	スポーツ環境改善プロジェクト				
	趣旨・目的	市民が生涯を通してスポーツを楽しめる環境を、地域で充実させていくための改善策を、関係者を交えて検討、実現していく。シンポジウムでは、教育長、市長のほか、芝生化、学校施設の地域有効活用の先進的取り組み実践者を招き、市内関係者の認識の共有化を図り、市内の学校施設の地域スポーツクラブによる利活用と、それをきっかけとした整備につなげる仕組みづくりについて、施設の有効活用による量的な場の確保や、芝生化などの質的な視点の両面から進める。				
	内容	さいたま市内の総合型地域スポーツクラブ関係者を集め、先進的な取り組みを行っている他県の総合型地域スポーツクラブの方を講師に招き、勉強会を行う。また、年度末には市長、市教委、市内スポーツ団体関係者にも広報し、地域のスポーツ行政担当者、自治会長、青年会議所代表、他県の総合型地域スポーツクラブの責任者などをシンポジストに招き、地域スポーツ振興に係るシンポジウムを実施する。				
	対象者	さいたま市内の地域スポーツクラブ関係者、市教育委員会、市スポーツ振興部署、スポーツ少年団関係者	参加人数	勉強会: 45名 シンポジウム: 80名	実施回数	勉強会: 2回 シンポジウム: 1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラブニュースに事業の概要や実施状況等を掲載。</li> <li>地域自治会との連携強化を図るために、自治会の会議で趣旨説明を行った。</li> <li>シンポジウムでは、市民・行政・企業・学校の観点を取り入れた。</li> <li>全国で先進的な実践をしている方を講師として招いた。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣スポーツクラブのスタッフ同士のネットワークが構築できた。</li> <li>先進的な取り組みをしている方の講演を聞くことによってスタッフの資質向上につながった。</li> <li>シンポジウムでは市長の参加もあり、所期の目的が達成できた。</li> </ul>				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣スポーツクラブのさらなる協力体制づくりが必要である。</li> <li>行政のさらなる協力が必要である。</li> <li>活用できる施設設備の充実が必要である。</li> </ul>				

	取組の名称	介護予防「自治会シニア運動教室」				
	趣旨・目的	今後、急激に進展する高齢社会にそなえ、介護予防への取り組みの充実が重要になっているなか、スポーツ、運動面からのアプローチは十分に進んでいるとはいえない。このような現状を改善するために、地域自治会等に働きかけ介護予防取組の活性化を図る。				
	内容	住民に関心の高いウォーキングやシニア体操等をテーマとした、近隣自治会単位での日常的運動の巡回教室を実施する。ウォーキング協会などと連携してシニア運動教室を実施する。正しい知識を身につけてもらうために、座学の時間も設ける。				
	対象者	領家地区の高齢者	参加人数	56名	実施回数	2回
3	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラブニュースに事業の概要や実施状況等を掲載。</li> <li>地域自治会との連携強化を図るために、自治会の会議で趣旨説明を行った。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の介護予防に対するニーズが高く、今後の活動への参考となった。</li> <li>近隣自治会との連携を図ることができ、総合型地域スポーツクラブの認識が以前より高くなった。</li> <li>当クラブにおける介護予防クラス新設につながった。</li> </ul>				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだまだ地域の認識が低いので、自治会と連携した広報が必要である。</li> <li>市の自治連合会との連携が必要である。</li> <li>医療機関との連携が必要である。</li> </ul>				

	取組の名称	体力向上・苦手種目克服プロジェクト(逆上がり、親子キャッチボール教室)				
	趣旨・目的	近隣地域の子どもを対象に、逆上がり(本年度のさいたま市教育行政方針における小学校体育重点課題)、投力(全国体力テストで本市は著しく劣っている)など、子どもの苦手種目に特化した教室を展開し、体育・スポーツ嫌いになることを防止する。				
	内容	逆上がり教室: 夏季休業中に体操競技の専門家を講師に迎え、10名×2講座×3日間の逆上がり教室を実施する。親子キャッチボール教室: 3月の日曜日に真下投げの指導者を講師に迎え、親子キャッチボール教室を開催する。				
	対象者	市内小学生(体育やスポーツの苦手な子)とその保護者	参加人数	逆上がり教室: 60名 親子キャッチボール教室: 48組	実施回数	7回
4	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラブニュースに事業の概要や実施状況等を掲載。</li> <li>地域自治会との連携強化を図るために、自治会の会議で趣旨説明を行った。</li> <li>シンポジウムでは、市民・行政・企業・学校の観点を取り入れた。</li> <li>全国で先進的な実践をしている方を講師として招いた。</li> </ul>				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>3日間の逆上がり教室では、半数の児童が逆上がりができるようになり、その後の自主的な努力で75%の児童ができるようになった。</li> <li>親子キャッチボールでは投運動の基本を学びながら、親子のコミュニケーションが深まった。</li> </ul>				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>逆上がりでもキャッチボールでも適切な指導と継続的な練習が必要である。</li> <li>児童生徒が徒党を組んで遊べるような環境や時間が必要であり、総合型地域スポーツクラブとしてそのような場とプログラムサービスの必要性を感じる。</li> <li>地域の小学校との連携が望まれる。</li> </ul>				

## 小学校体育活動支援

派遣先学校総数	10 校
コーディネーター総数	16 名

### ◆効果を高めるための工夫や取組など

・ 事前に市教育委員会の承認を得た。
・ 派遣先小学校の管理職との事前打ち合わせを綿密に行い、学校の要望を実現できるようにした。
・ コーディネーターの資質向上のため事前研修及び救急法講習会を実施した。
・ 業務報告書を作成記録させた。
・ プロジェクトリーダーがコーディネーターの授業見学を行った。
・ 派遣先小学校にアンケートを行う。

### ◆成果と課題

#### 〔成果〕

・ 派遣先小学校に総合型地域スポーツクラブの存在が認識された。
・ コーディネーターに対する評価が高かった。
・ 派遣先小学校の児童に受け入れられていた。
・ 派遣先小学校の教員の資質向上が図られた。
・ コーディネーター自身の資質向上が図られた。
・ 教員志望のコーディネーターの将来の教員生活への意欲や心構えが明確化した。

#### 〔課題〕

・ 市教育委員会と総合型地域スポーツクラブの連携が必要である。
・ 小学校と総合型地域スポーツクラブの連携及び信頼関係の構築が大切である。
・ より大きな効果を得るために優秀なコーディネーターを確保することが大切である。

## 本事業全体の成果と課題

### 〔成果〕

- ・ トップアスリートの派遣、小学校体育活動コーディネーターの派遣、地域課題解決への取組などにより、学校や地域での総合型地域スポーツクラブの認知度が以前に比べ高くなり、総合型地域スポーツクラブの活動が理解されるようになった。
- ・ 中学校や高等学校の運動部の生徒や地域スポーツ愛好者がトップアスリートの技に触れることができ、さらなるスポーツへの意欲を喚起できた。
- ・ 小学校体育活動コーディネーターの派遣により、児童の学習活動の効果的な支援ができ、小学校の教員にとってもコーディネーター本人にとっても意義深い事業であった。  
特にコーディネーターがまじめに取り組んでくれたため、学校からの評価が高く、派遣した全校で来年も継続をしてもらいたいという意思表示をいただいた。
- ・ 勉強会やシンポジウムを通して、地域スポーツクラブのスタッフ同士の情報交換や交流が図られ、ネットワークが構築されつつある。
- ・ 近隣自治会との交流の中から、総合型地域スポーツクラブに対するニーズが高いことが示され、今回の事業がきっかけとなって、今後の高齢者を対象とした介護予防活動の連携事業へと発展する基盤ができた。

### 〔課題〕

- ・ 都市型の総合型地域スポーツクラブでは、クラブの存在や活動状況などが地域の学校や住民にあまり知られていない現状がある。地域の学校や住民に総合型地域スポーツクラブを認知してもらうために、本事業を通じ、ことあるごとに地域との連携を図りながら総合型地域スポーツクラブのPRをすることが大切である。
- ・ 本事業の成果を高めるために、単年度の委託事業ではなく、数年にわたる計画的継続的な本事業の実施が必要である。特に、今年度は開始時期が遅れたため、十分な成果が得られない状況が多かった。
- ・ トップアスリートやコーディネーターを確保するのに苦勞をしたため、有能なスタッフを確保するために、各競技団体や大学などとも連携して情報収集にも努力することが重要である。
- ・ 経理事務の量が多く、効率的な処理ができるように工夫することが必要である。